

久高島の年中行事と神女の服装

熊谷職業和裁学院(非常勤) 嘉陽妙子

目的 久高島(沖縄県)の年中行事で着用される神女の服装にはどのような種類があるのかを調べる。また、年中行事と服装との関係を考察する。

方法 1985年2月19日(旧暦12月30日)、旧暦の大晦日から、1986年1月29日(旧暦12月20日)までの間、久高島の14の主な祭りと行事を調査した。現在行われていないものは、古老による聞き取り調査を行い、また、ビデオテープに納められているものは、それを参考にした。

結果 久高島の神女は、国神、屋神以外、年齢による階層がある。

年中行事における神女の服装は、大きく分けて①白衣装・サージ・ハブイ、②白衣装・サージ、③白衣装、④クンジの4つに分けられる。ノロの場合、このほかにまが玉をつけるが、それはセマツティの時だけである。この4種類の服装が、祭りや年中行事の内容によって、また、参加する階層によって変化する。

セマツティとイーケヨー ハリケヨーは参加者全員クンジであるが、前者が男神役も参加するのに比べ、後者は女だけで、しかもイザイホー参加前の大人も子供も女全員参加するところに特徴がある。現在は大人だけだが、以前は2、3ヶ月の赤ちゃんも連れて行ったという。子供は赤い胴衣に白のカカン、大人は自分で織った芭蕉布を着ていたという。円陣を作って国神のテイルルに合わせて全員が歌い、それによって厄払いをするという女の祭りである。このイーケヨー ハリケヨーは、他の年中行事と比べ、服装、参加者、内容に大きな特徴があり、上巳の節供と共通点があるように思われる。